

放課後等デイサービスに係る自己評価結果公表用

公表日:令和 5年 2月 1日

事業所名: 通園(デイサービス)事業
おれんじくらぶ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

(配布25 回収10 回収率40%)

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・ 体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2	2		パーティションで仕切ってスペースを作っている。利用人数を状況により調整したり、場所を確保したりする。	10					前年とは状況は変わらない。特に感染症による影響を受けるようになり、スペースの確保と人数の調整に配慮して実施している。
	2 職員の適切な配置		4		施設のスペース的には今の配置数でよいと思われるが、放デイの活動にスタッフ不足を感じる。	10					定員に対する職員数は満たしているが、より丁寧な療育を実施するためには、増員したい。また、男性職員の登用が期待される。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備		3	1	気を付けてはいるが、十分でないこともある。	10					設備上難しい事もあるが、パーティション等を活用しながら個々の特性に配慮した方法を考えている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保		3	1	活動に合わせた空間の設定を心がけているものの、ワンルームの中での調整の為、子どもたちにとって不十分なこともある。感染対策の為の工夫をしている。	10					感染対策中は、状況に応じて個別的空間の確保ができるよう工夫が必要。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	4			できるだけミーティングの時間を設定し、職員の意識統一などを心がけている。						時間を有効に使いながら、効果的なやり方をしていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			4							未実施
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	2	2								感染対策としてオンライン研修が増えてきており、できるだけ参加できるようにしている。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	3	1			10					できるだけ子どものニーズを大切にする事を意識している。アセスメントが不十分な為支援の方向性を共有できないこともあるため、しっかりとアセスメントしていく。課題について、しっかりと保護者と確認し合いたい。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	3	1			10					具体的支援方法に欠けている事もあり、記載内容を吟味する必要がある。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	4			集団活動の枠の中でも個々への支援を重点に置いているので、人数を制限する事もある。放デイにおける集団活動を取り入れるようにしたことで、子どもたちの新しい発見ができメリットがある。						活動の内容に、地域とのつながりを増やしていける内容を今後も検討したい。(現在コロナの影響により、控えている事もある)地域に向いていく事や地域から講師として活動に参加してもらえる人とのつながり等を検討したい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	2	2		10					計画に沿った適切な支援を目指しているが、実施できているかどうかとなると、不足している事も考えられる。	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	2	2	集団の活動では、リーダーがメインとなり（交代制）、スタッフ間で相談して実施している。個別の活動でも、主に対応職員が行うがチームで考える為に互いに相談し合って実施する事を目指している。						スタッフの人数は少ないので、大筋はリーダーとなるスタッフが組み立てるが、意見を出し合っ、より効果的な活動ができることを目指している。スタッフ全員が共有する事によって、不適切対応を避ける事にもなる。	
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	4			特に集団の活動の際には、職員間で相談をしながら、子どもたちがどのようにすればどの子も楽しい時間を過ごせるかを考えている。	10				「たのしい」事は前提にあり、個々に応じた具体的な支援方法を取り入れながら実施できる事を目指している。	
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	3	1	長期休暇中にしかできないような活動も取り入れている。個別療育では、活動内容により時間設定を通常よりも長くする事もある。						感染対策として、地域の中での活動に対して消極的になっている。限られた条件の中でも必要な活動や必要な支援が実践されるようにアイデアをだしあっていきたい。	
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	3	1	特に集団活動においては、実施前に打ち合わせの時間を確保している。						集団療育では、打ち合わせは欠かせないようになっている。支援内容、役割分担、安全性、などについて子どもと保護者の動きを想定しながら、行うようにしている。また、感染症の流行の際には、接触等の感染対策についても意識するようになった。	
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	3	1	集団活動では、療育実施後に振り返りを行っている。個別療育についてはやや不足している。						振り返りも欠かせないようにしている。それぞれのスタッフから意見を聞く事で、活動内容や子どもを色々な角度から確認出来る。自分たちの質を上げる為にも必要であるが、チームで行っている事であることを心がけたい。	
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	4			記録は継続し、必要なものは保護者に確認してもらっている。					保護者に確認していただいても、支援の方法が伝わりやすい記録を心がけていきたい。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	4									
	関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	4								必要とする会議は感染症の流行に関わらず実施、参加しており、市町を越えて利用のある方は、オンラインによる会議も実施していただくことができた。
		2	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施									
		3	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備									
関係機関との連携（続き）	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	1	3	状況にあわせてZOOMなど様々な方保父を柔軟に取り入れながら継続して連携が取れるようにしたい。相談支援との協働により、以前よりも学校との関係が取りやすくなった。						必要に応じて情報共有が行われているが、リレーファイルの活用がもう少し促進されると良い。そのためには、こちらからの働きかけも必要。	
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	2	2	町内の事業所間（放デイ、相談）では、定期的に連絡会を実施している。						情報提供が十分と問われると、互いの状況を知ったうえで、利用者がより効果的に療育を受ける事ができるよう、必要な情報は共有していく。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	3	1							つながりのある専門機関とは、研修の依頼や相談などを継続し、緊急の際にもアドバイスいただけるような関係性を持っていきたい。	
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	2	2	感染対策により、機会が減っているが、以前のように交流ボランティアができるとうい。児童館に遊びに行ったり、児童クラブと協働で何か子どもたちが楽しめる活動を検討したい。	3	2	1	4	コロナ前はあったと思う。	ボランティアとして事業所にきてもらって一緒に楽しんだり、児童クラブを地域の資源として活用したり、児童クラブと協働活動を考えたりするなど、感染のおさまりを待って、機会を持ちたい希望はある。	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	3	1	感染を避けるため、慎重にならざるを得なかったというはあるが、考えていかなければならない。						現状、感染対策として、特に地域との関係性がうすれているが、感染のおさまりを待って、機会を増やしていきたい。	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	4				10					
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4				10					
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	1	3	ペアレントトレーニングとしては、放デイについては実施していない。	10					ペアレントプログラムとしてはないが、希望されている保護者もあるため、検討していきたい。ペアレントトレーニングではないが、各種子育てに関する研修会を保護者対象で実施している。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	2	2		伝えたいと思いつながらうまく伝えられていないことがある。	10					
	5	2	2			10					保護者の回答によるとできているという事であるが、事業所としてしっかりとできているかは自信がない。
	6	2	2		保護者会での活動は、講演会等を含み年間実施されている。	8			2	参加したことがない為、分からない。	保護者会については、周知はしているものの、活動のある時に参加ができないことがあるため、保護者会活動として目に見えず、分かりづらい事が、保護者の回答の結果になっているのでは。周知の方法や説明のし方を工夫していきたい。
	7	3	1		保護者への説明は契約時に説明する。実際に苦情のあった場合はマニュアルに沿って対応し、法人内では定期的に委員会を実施。	10					
	8	4				10					
	9		3	1	マチコミの活用。ホームページにて掲載。年に1回、子どもや保護者、スタッフの思いを綴った文集を制作している。（保護者会と共に）事業所内に活動や行事の様子を写真で記録し閲覧してもらえるようにしている。	10					文集の内容に事業所内の説明の記事をのせたことで、保護者より知らなかったことが分かったという声もあった。自分たちができる発信の仕方を工夫していきたい。
	10	4			契約時に説明等を行い、その後も十分に配慮している。	10					
非常時等の対応	1	3	1			9			1		マニュアルとしてはあるものの、いざという時に対応できるかや不安がある。コロナ感染症については、随時情報が変化していくため、その都度対応も変わっていった。保護者への周知も徹底の機会も作ってきたい。
	2	3	1		保育所に合わせての実施をしている事もあり、毎回全ての人を対象には実施できないこともある為、日程を調整して実施し、保護者にも周知の機会にしていきたい。	8			2		マニュアルとしてはあるものの、いざという時に対応できるかや不安がある。コロナ感染症については、随時情報が変化していくため、その都度対応も変わっていった。保護者への周知も徹底の機会も作ってきたい。
非常時等の対応（続き）	3	2	2								外部研修ができない時には、内部で研修の機会を持つようになっている。虐待防止につながる特性理解の研修や、職員の倫理研修等は取り組んでいる。
	4		4								身体拘束について職員間で、改めて検討する機会を持ち、理解をしたうえで進めていきたい。
	5		4		食事をとる場面はほとんどないが、子どものアレルギーについては確認しておきたい。（フェイスシート等により知る程度）						直接的に食事の場面はないが、体調の変化が見られる場面はあるため、把握しておく必要はある。聞き取りをしっかりとるようにする。
	6	4									環境の設定や職員の配置などについて改善点を確認し、同じ失敗のないように心がけている。虐待防止にもつながる場面の検証にもなるため、職員間で意識統一を図りたい。